

令和8年度全国学力・学習状況調査の1段階目の結果公表を行い、各学校に結果を返却しましたので、お知らせします。

8 文科教第 7 5 5 号
令和 8 年 7 月 16 日

各 都 道 府 県 教 育 委 員 会
各 指 定 都 市 教 育 委 員 会
各 都 道 府 県 知 事
構造改革特別区域法第 12 条第 1 項の 殿
認定を受けた各地方公共団体の長
附属学校を置く各国公立大学法人学長

文部科学省総合教育政策局長

塩 見 み づ 枝

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果公表①及び学校への提供
について（通知）

令和 8 年度全国学力・学習状況調査（以下「令和 8 年度調査」という。）の結果については、「令和 8 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（令和 7 年 12 月 5 日付け 7 文科教第 1370 号文部科学事務次官通知別紙。以下「令和 8 年度調査実施要領」という。）において、文部科学省から公表することとしています。また、令和 7 年度以降の調査結果の取扱い等については、「全国学力・学習状況調査の調査結果の取扱いの改善等について」（令和 7 年 6 月 6 日付け 7 文科教第 507 号文部科学省総合教育政策局長通知。以下「令和 7 年 6 月 6 日通知」という。）に従って、児童生徒の学びへの還元を最優先に学校への結果返却の時期を早期化するとともに、国による結果公表は 3 段階に分けて行うこととしています。

本日、1 段階目の結果公表（以下「結果公表①」という。）として、正答率・IRT バンド分布などの全国平均等下記のとおり公表しました。併せて、令和 8 年度調査に参加した各学校に結果を返却するとともに、学校への返却内容を設置管理者や都道府県教育委員会にも提供しましたので、お知らせします。

調査結果は、今後提供・公表される結果も含めて、各教育委員会、学校法人、国立大学法人、公立大学法人、学校設置会社及び学校（以下「各教育委員会、学校等」という。）において十分に活用し、教育施策の成果と課題の検証・改善や、学校における学習指導の改善等に役立てていただくことが重要です。一方、調査結果については、令和 8 年度調査実施要領と令和 7 年 6 月 6 日通知に基づき、適切に取り扱っていただく必要があります。調査結果の活用や取扱いに関する留意事項等は下記のとおりですので、各教育委員会、学

校等におかれては、下記に御留意の上、適切な対応をお願いします。

都道府県教育委員会におかれては域内の市町村教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）及び関係する所管の学校に対して、指定都市教育委員会におかれては関係する所管の学校に対して、国立大学法人学長及び公立大学法人学長におかれては関係する附属学校に対して、本通知の内容について指導、助言及び周知をお願いします。都道府県知事におかれては関係する域内の私立学校及びそれを設置する学校法人に対して、構造改革特別区域法（平成 14 年法律第 189 号）第 12 条第 1 項の認定を受けた地方公共団体の長におかれては関係する域内の株式会社立学校及びそれを設置する学校設置会社に対して、本通知の内容について周知をお願いします。

記

1. 令和 8 年度調査の結果公表①について

令和 8 年度調査の結果のうち、以下の資料を文部科学省及び国立教育政策研究所のホームページに公開したこと。

○令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント 別添 1

①全国の正答率・IRT スコア結果概要

各集計単位の平均正答率・スコアのばらつきは過年度と比べて大きな変化は見られず、都道府県別の平均正答率・スコアについては、ばらつきの状況は狭い範囲に収まっていること。

②質問調査の結果(速報)

「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒や、挑戦心や好奇心に関する質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られること。

○正答率・IRT バンド分布などの全国平均 別添 2－1～2－4

- ・令和 8 年度全国学力・学習状況調査 実施概況（小学校）
- ・令和 8 年度全国学力・学習状況調査 実施概況（中学校）
- ・令和 8 年度全国学力・学習状況調査 問題別調査結果（小学校）
- ・令和 8 年度全国学力・学習状況調査 問題別調査結果（中学校）

（国立教育政策研究所ホームページ）

URL：<https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/index.html>

2. 調査結果の活用及び取扱いについて

(1) 調査結果の活用

児童生徒の学びへの還元を最優先に、学校への結果提供の時期を早期化していることも踏まえ、各学校においては、児童生徒一人一人の結果の振り返りを進めるために、提供された結果の確認、及び児童生徒・保護者への個人票の返却を計画的に行うこと。

なお、調査結果の分析に当たっては、教科調査の平均正答数、平均正答率、平均IRT スコアのみならず、個々の問題や領域等に着目した学習指導上の課題の把握・分析等を通じて、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要であること。

また、各教育委員会においては、各学校における結果の取扱いに係る取組を支援するとともに、令和8年度調査実施要領7.（5）に基づいて調査結果を活用できるよう、本日提供した学校向け結果帳票や7月27日に提供する教育委員会向け結果帳票を活用する準備を進めていただきたいこと。

各都道府県・指定都市教育委員会において、8月3日の2段階目の公表（結果公表②）以降に、当該都道府県・指定都市の状況、所管の学校、域内市町村ごとの状況等について公表することを検討している場合には、令和7年6月6日通知5.を踏まえ、国の分析結果や国立教育政策研究所の報告書等を参考に、調査結果を多面的に解釈することができる示し方への改善に努めていただきたいこと。

(2) 調査結果の取扱いに関する留意事項

調査結果の取扱いについては、令和8年度調査実施要領7.と「令和8年度全国学力・学習状況調査における結果の提供及び公表日等について」（令和8年6月10日付け事務連絡）に基づき、適切に行うこと。

3. 今後の結果公表スケジュール

- | | |
|------------|--|
| 7月16日（木） | 結果公表①（正答率・IRT バンド分布などの全国平均）
学校向け帳票、個人票の提供 |
| 7月27日（月） | 教育委員会向け帳票の提供 |
| 8月3日（月） | 結果公表②（全国データに基づく分析結果） |
| 9月以降（秋頃目途） | 結果公表③（都道府県・指定都市別データに基づく分析結果） |

別添 1 令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント

別添 2 正答率・IRT バンド分布などの全国平均

参考資料 令和 8 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（抜粋）

（参考） 「全国的な学力調査（全国学力・学習状況調査）」のホームページ
（文部科学省ウェブサイト）

URL: https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

（参考） IRT 分析等にかかる研修動画
（国立教育政策研究所ウェブサイト）

URL: <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/kensyushiryoudouga/26bunseki.html>

（参考） IRT を用いた結果返却に関する動画・リーフレット
（文部科学省ウェブサイト）

URL: https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_03311.html

【本件担当】

文部科学省総合教育政策局

参事官（調査企画担当）付学力調査室

E-mail: gakucho@mext.go.jp

電話 03-6734-4111（代表）内線 3726

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント

令和8年7月

文部科学省・国立教育政策研究所

1

令和8年度全国学力・学習状況調査の概要



調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や
学習状況を把握・分析し、
教育施策の成果と課題を検証し、
その改善を図る

学校における児童生徒への
学習指導の充実や
学習状況の改善等に
役立てる



そのような取組を通じて、
教育に関する継続的な
検証改善サイクルを
確立する



調査概要

調査実施日	令和8年4月20日(月)～5月29日(金)
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、 英語（中学校のみ） 〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査 ※令和5年度以来の実施
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（4技能（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと））の 全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和5年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

2

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表スケジュール

7月16日（木）	結果公表①（正答率・IRTバンド分布などの全国平均） 学校向け帳票、個人票の提供
7月27日（月）	教育委員会向け帳票の提供
8月3日（月）	結果公表②（全国データに基づく分析結果）
9月以降（秋頃目途）	結果公表③（都道府県・指定都市別データに基づく分析結果）

3 CBT調査の実施状況（中学校英語）

（１）学校単位の実施状況

	中学校英語を実施した学校数		中学校英語を実施しなかった学校数（※）			計
	調査実施日に調査を実施し、完了した学校数	後日実施を行い、完了した学校数	ネットワーク・端末の理由	準備面の理由	その他	
英語「聞くこと・読むこと・書くこと」	9,349校 (98.0%)	156校 (1.6%)	0校 (0%)	1校 (0.01%)	29校 (0.3%)	9,535校
英語「話すこと」	9,461校 (99.5%)		0校 (0%)	1校 (0.01%)	42校 (0.4%)	9,504校

※ 実施しなかった理由

- ◆ 準備面の理由：MEXCBTの登録申請が遅れた
- ◆ その他：対象生徒の体調不良等

（２）生徒単位の実施状況

	調査実施日に調査を実施し、完了した生徒数	後日実施を行い、完了した生徒数	計 (調査完了生徒総数)
英語「聞くこと・読むこと・書くこと」	861,464人	15,065人	876,529人
英語「話すこと」			863,794人(※)
(参考) 中学校国語	864,717人	15,500人	880,217人
(参考) 中学校数学	865,360人	15,458人	880,818人

※ 英語「話すこと」は、当日実施校(46,645人)と期間内実施校(817,149人)の実施人数の総数。

（３）配慮版プログラムの使用状況

	拡大文字問題プログラム	点字問題冊子	代筆解答プログラム	時間延長プログラム	ルビ振り問題プログラム	スクリプト表示プログラム
英語「聞くこと」	644人	23人		177人	11,651人	
英語「読むこと・書くこと」	725人	23人		119人	12,441人	
英語「話すこと」	294人	21人	16人		9,331人	96人

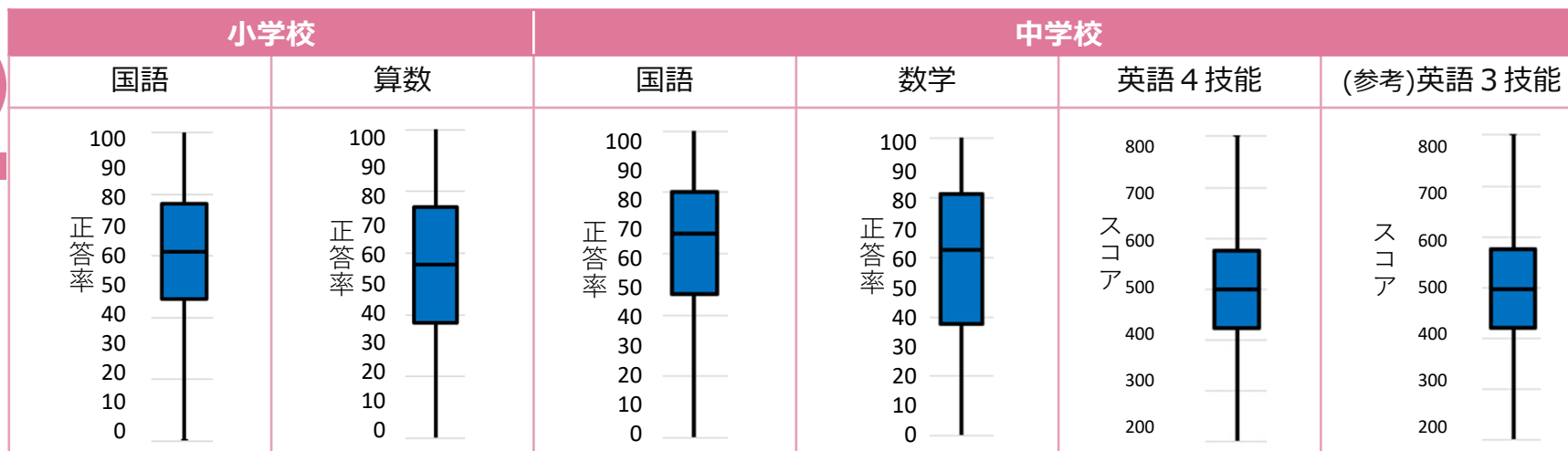
※ 中学校英語は、IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の4技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校（46,645人分）のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、「聞くこと・読むこと・書くこと」（876,529人分）の3技能を統合したIRTスコアを返却。

全国（国公私）の
平均正答数（率）・
平均IRTスコア

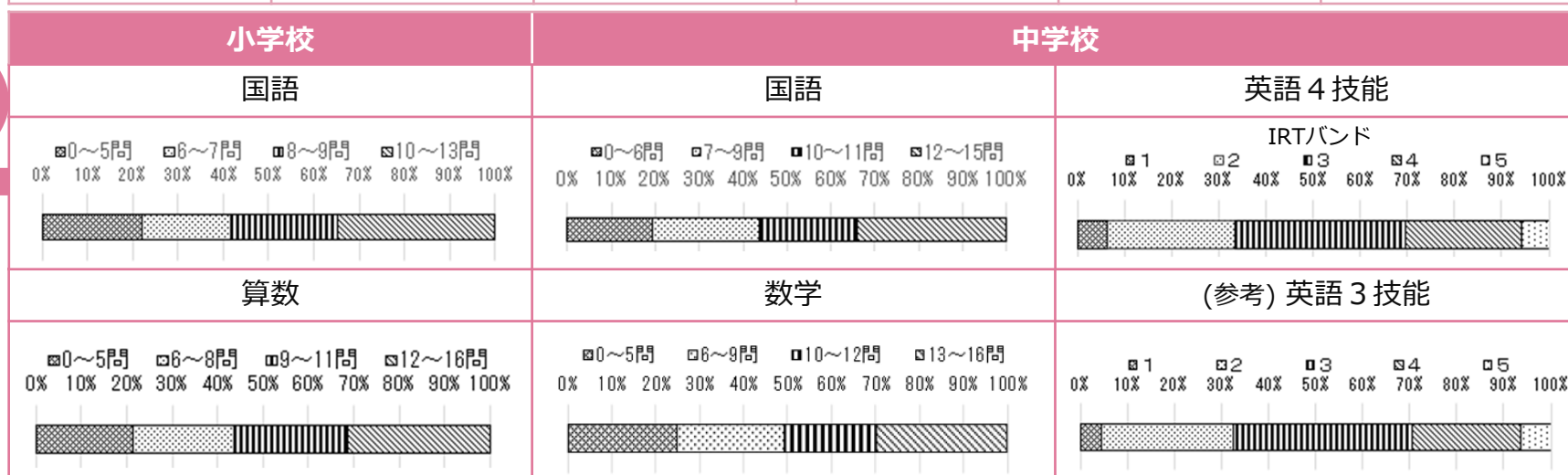
小学校		中学校			
国語	算数	国語	数学	英語 4 技能	(参考)英語 3 技能
7.9/13 問 (61.1%)	9.1/16 問 (56.6%)	9.6/15 問 (64.2%)	9.2/16 問 (57.4%)	499	502

※ 各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、**過年度の結果と単純に比較することは適当ではない**ことに留意が必要。

全国の正答率・
IRTスコアの分布



正答数・IRTバンド
ごとの層分布



※ 本調査におけるIRTバンド（中学校英語）は、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるように設定したもののだが、実際の各生徒のスコア状況により各バンドの割合は変動する。

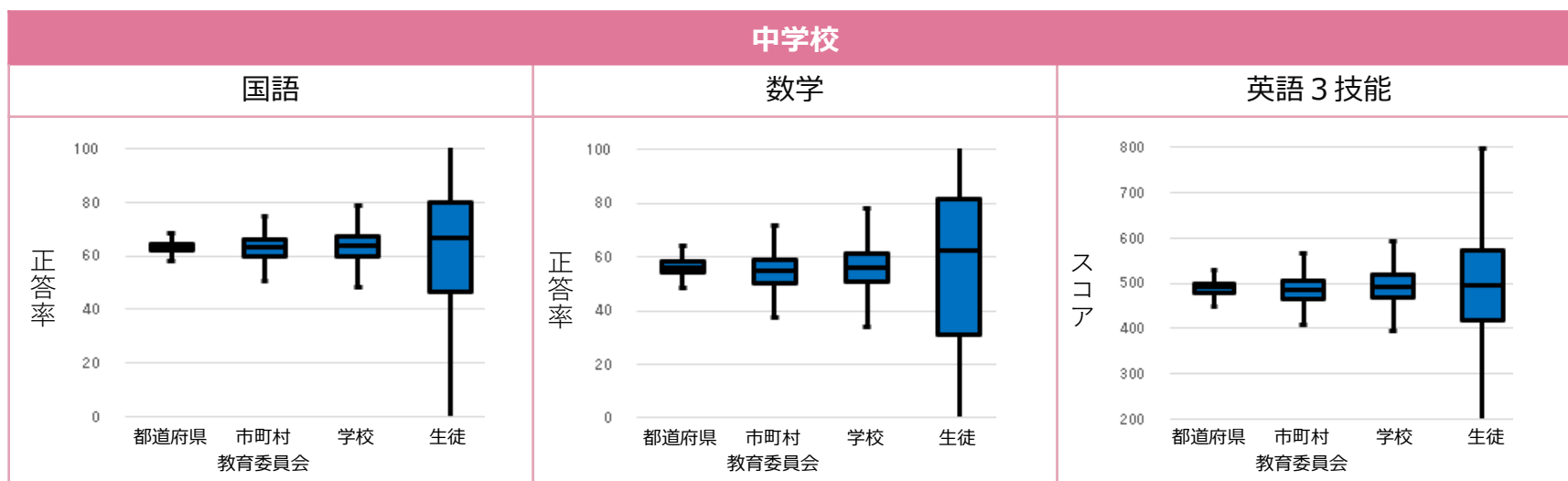
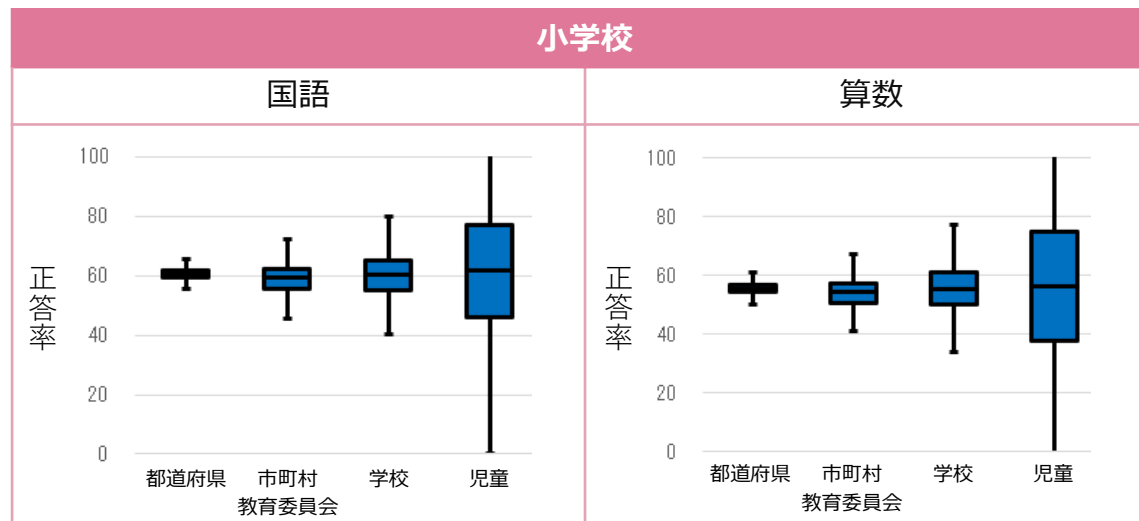
中学校英語 IRTバンド	1	2	3	4	5
4技能スコア換算	~341	342~448	449~556	557~663	664~
3技能スコア換算	~329	330~443	444~558	559~673	674~

様々な集計単位で見る
正答率・IRTスコアの
ばらつき

- ・各集計単位の平均正答率・スコアのばらつきは過年度と比べて大きな変化は見られない。
- ・都道府県別の平均正答率・スコアについては、ばらつきの状況は狭い範囲に収まっている。

※都道府県・指定都市別
データに基づく分析結果
は、令和8年9月以降に
公表予定。

※英語「話すこと」は当日
実施校の結果を全国値と
しているため、英語の集
計単位毎の結果は3技能
で表示。



箱ひげ図



第3四分位数から、第1四分位数～第3四分位数の1.5倍の長さの中での最大値

第3四分位数（75パーセンタイル）

中央値（第2四分位数（50パーセンタイル））

第1四分位数（25パーセンタイル）

第1四分位数から、第1四分位数～第3四分位数の1.5倍の長さの中での最小値

パーセンタイル

計測値の統計的分布の上で、
小さい方から数えて何%目の値は、
どれくらいかという見方をする統計
的表示法

5 質問調査結果（児童生徒、学校）【速報】



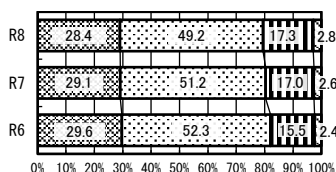
学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

- ◆ 昨年度までと同様、約80%の児童生徒が「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考えている。

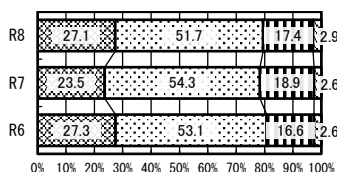
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

小学校



中学校



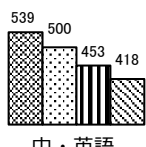
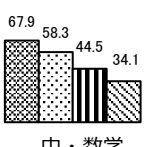
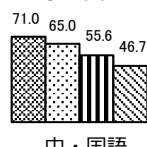
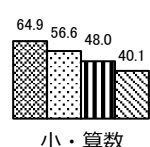
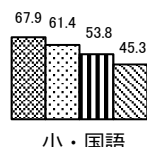
- ◆ 「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考える児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率・スコア

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



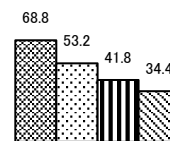
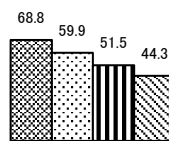
※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

各教科への興味・関心、理解度

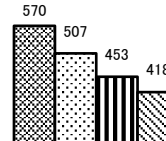
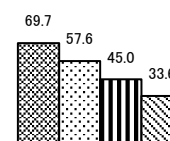
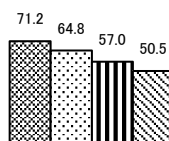
- ◆ 「**授業の内容がよく分かる**」と回答した児童生徒ほど**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

授業の内容がよく分かる

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



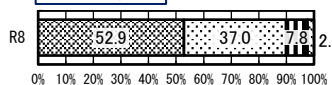
ICT機器の活用

- ◆ 約90%の児童生徒が、ICT機器を活用することで「**楽しみながら学習を進めることができる**」「**友達と協力しながら学習を進めることができる**」と考えている。

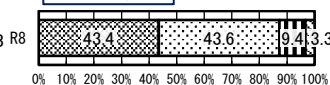
☒ そう思う ☒ どちらかといえば、そう思う
☐ どちらかといえば、そう思わない ☐ そう思わない

楽しみながら学習を進めることができる

小学校

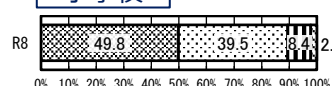


中学校

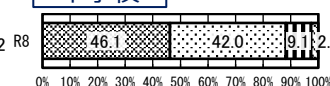


友達と協力しながら学習を進めることができる

小学校



中学校



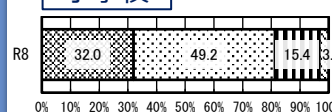
挑戦心や好奇心

- ◆ 約70%～90%の児童生徒が、**挑戦心や好奇心**に関する質問に肯定的に回答している。また、そのような児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

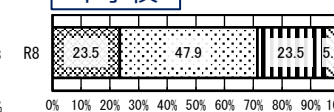
課題が難しくなると、さらに努力する

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

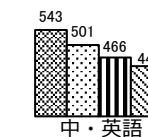
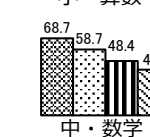
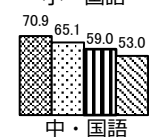
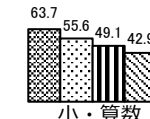
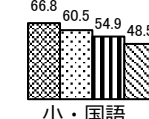
小学校



中学校



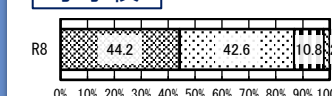
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



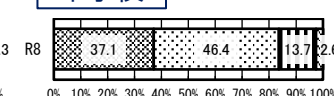
新しいことを学ぶのは好きだ

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☐ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

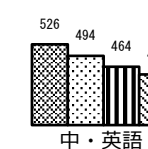
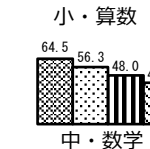
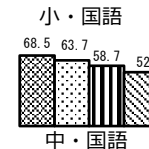
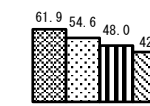
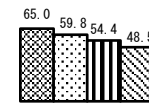
小学校



中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



※中学校英語はCBTで実施し、英語4技能のIRTスコアにより結果を表示している。

令和 8 年度全国学力・学習状況調査

小学校調査

実施概況
全国

- ※ 1 : A 表、C 表中の「学校数」の「調査対象者在籍学校数」は、令和 8 年 4 月 8 日時点における学校数。
 ※ 2 : A 表、B 表、C 表中の「児童数」は、該当解答用紙を提出した（またはCBT方式で解答した）児童数。
 ※ 3 : B 表中の「学校数」の「実施数」は、学校全体として 4 月 2 4 日以降 4 月 3 0 日までに調査を実施した学校数。
 ※ 4 : B 表中の「児童数」は、4 月 2 4 日以降 4 月 3 0 日までに実施した調査の解答用紙を提出した児童数。
 学校全体として 4 月 2 3 日に調査を実施した場合も含む。

【A 表：4 月 2 3 日に調査を実施】

	学校数			児童数	
	調査対象者在籍学校数	実施数	実施率 (%)	国語	算数
全国	18,453	18,271	99.0	934,607	934,973
小学校	18,010	17,855	99.1	924,336	924,693
義務教育学校（前期課程）	280	277	98.9	9,945	9,956
特別支援学校（小学部）	163	139	85.3	326	324
国立学校	75	74	98.7	5,950	5,949
小学校	66	65	98.5	5,530	5,529
義務教育学校（前期課程）	6	6	100.0	407	407
特別支援学校（小学部）	3	3	100.0	13	13
公立学校	18,126	18,077	99.7	922,411	922,778
小学校	17,694	17,671	99.9	912,565	912,923
義務教育学校（前期課程）	273	271	99.3	9,538	9,549
特別支援学校（小学部）	159	135	84.9	308	306
私立学校	252	120	47.6	6,246	6,246
小学校	250	119	47.6	6,241	6,241
義務教育学校（前期課程）	1	0	0.0		
特別支援学校（小学部）	1	1	100.0	5	5

	平均正答数（正答率）			
	国語	正答率 (%)	算数	正答率 (%)
全国	7.9 / 13	61.1	9.1 / 16	56.6
国立学校	9.9 / 13	75.8	12.2 / 16	76.0
公立学校	7.9 / 13	60.9	9.0 / 16	56.4
私立学校	9.2 / 13	70.9	11.5 / 16	72.1

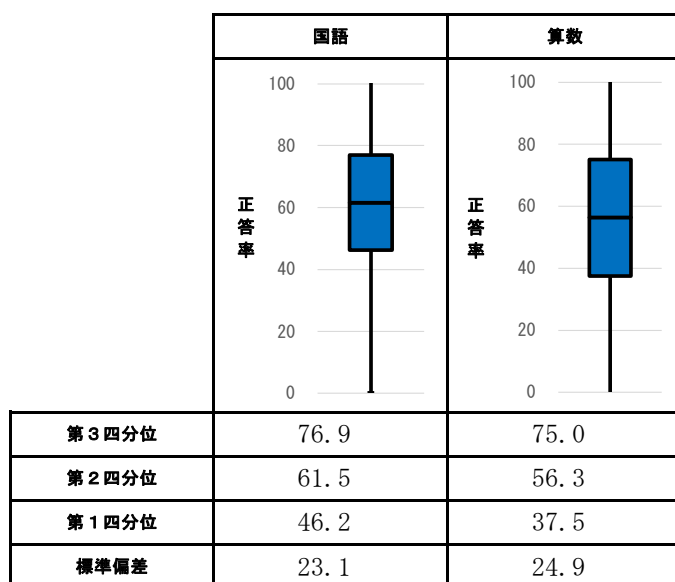
【B 表：4 月 2 4 日以降 4 月 3 0 日までに調査を実施（参考）】

	学校数			児童数	
		実施数		国語	算数
全国	—	18	—	20,387	20,131
小学校	—	16	—	20,224	19,974
義務教育学校（前期課程）	—	0	—	158	151
特別支援学校（小学部）	—	2	—	5	6
国立学校	—	1	—	164	161
小学校	—	1	—	159	156
義務教育学校（前期課程）	—	0	—	5	5
特別支援学校（小学部）	—	0	—		
公立学校	—	13	—	20,026	19,773
小学校	—	11	—	19,868	19,621
義務教育学校（前期課程）	—	0	—	153	146
特別支援学校（小学部）	—	2	—	5	6
私立学校	—	4	—	197	197
小学校	—	4	—	197	197
義務教育学校（前期課程）	—	0	—		
特別支援学校（小学部）	—	0	—		

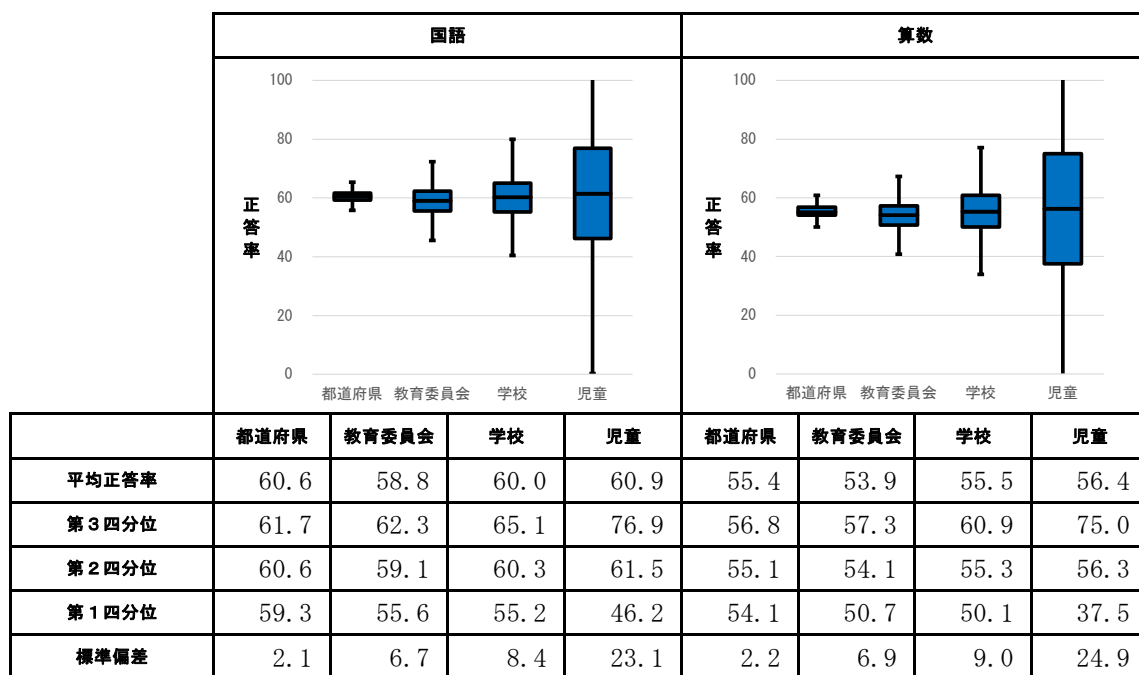
【C 表：実施状況の総計】

	学校数			児童数		
	調査対象者在籍学校数	実施数	実施率 (%)	国語	算数	質問
全国	18,453	18,296	99.1	954,994	955,104	936,899
小学校	18,010	17,874	99.2	944,560	944,667	926,610
義務教育学校（前期課程）	280	279	99.6	10,103	10,107	9,960
特別支援学校（小学部）	163	143	87.7	331	330	329
国立学校	75	75	100.0	6,114	6,110	5,994
小学校	66	66	100.0	5,689	5,685	5,575
義務教育学校（前期課程）	6	6	100.0	412	412	406
特別支援学校（小学部）	3	3	100.0	13	13	13
公立学校	18,126	18,097	99.8	942,437	942,551	925,710
小学校	17,694	17,685	99.9	932,433	932,544	915,845
義務教育学校（前期課程）	273	273	100.0	9,691	9,695	9,554
特別支援学校（小学部）	159	139	87.4	313	312	311
私立学校	252	124	49.2	6,443	6,443	5,195
小学校	250	123	49.2	6,438	6,438	5,190
義務教育学校（前期課程）	1	0	0.0			
特別支援学校（小学部）	1	1	100.0	5	5	5

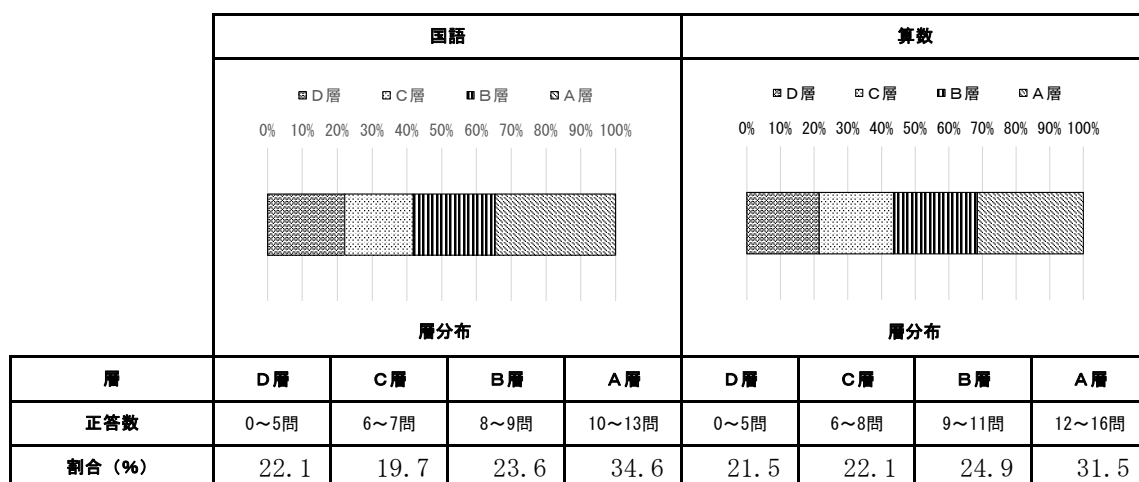
【全国（国公私）の正答率の分布】



【様々な集計単位でみる正答率のばらつき（公立）】



【全国（国公私）の正答数ごとの層分布】



実施概況
全国

- ※ 1 : A 表、C 表中の「学校数」の「調査対象者在籍学校数」は、令和 8 年 4 月 8 日時点における学校数。
※ 2 : A 表、B 表、C 表中の「生徒数」は、該当解答用紙を提出した（または CBT 方式で解答した）生徒数。
※ 3 : B 表中の「学校数」の「実施数」は、学校全体とし次の実施日に調査を実施した学校数。
4 月 2 4 日～4 月 3 0 日（国語、数学） 4 月 2 7 日～5 月 1 日（英語 3 技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）
※ 4 : B 表中の「生徒数」は、次の実施日に実施した調査の解答用紙を提出した（または CBT 方式で解答した）生徒数。
4 月 2 4 日～4 月 3 0 日（国語、数学） 4 月 2 7 日～5 月 1 日（英語 3 技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）
学校全体としては A 表で示す日程で実施した場合も含む。
4 月 2 3 日（国語、数学） 4 月 2 0 日～4 月 2 4 日（英語 3 技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」）
※ 5 : A 表、B 表、C 表中の「英語」の「生徒数」は、英語 3 技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を CBT 方式で解答した生徒数。
※ 6 : 英語 4 技能の IRT スコアは、次の実施日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。
4 月 2 0 日～4 月 2 4 日（英語 3 技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」） 4 月 2 4 日～4 月 2 7 日（英語「話すこと」）

【A 表：国語・数学は 4 月 2 3 日に調査を実施、英語は 3 技能を 4 月 2 0 日から 4 月 2 4 日に CBT 方式で調査を実施】

	学校数			生徒数		
	調査対象者 在籍学校数	実施数	実施率 (%)	国語	数学	英語
全国	10,128	9,430	93.1	864,717	865,360	861,464
中学校	9,584	8,920	93.1	849,966	850,601	846,721
義務教育学校（後期課程）	292	288	98.6	9,581	9,585	9,651
中等教育学校（前期課程）	57	49	86.0	4,796	4,802	4,872
特別支援学校（中学部）	195	173	88.7	374	372	220
国立学校	80	77	96.3	8,809	8,809	8,945
中学校	67	65	97.0	7,809	7,806	8,076
義務教育学校（後期課程）	6	6	100.0	518	518	419
中等教育学校（前期課程）	4	4	100.0	460	463	443
特別支援学校（中学部）	3	2	66.7	22	22	7
公立学校	9,249	9,146	98.9	841,873	842,491	839,203
中学校	8,739	8,660	99.1	828,738	829,351	825,938
義務教育学校（後期課程）	285	282	98.9	9,063	9,067	9,232
中等教育学校（前期課程）	34	34	100.0	3,728	3,731	3,820
特別支援学校（中学部）	191	170	89.0	344	342	213
私立学校	799	207	25.9	14,035	14,060	13,316
中学校	778	195	25.1	13,419	13,444	12,707
義務教育学校（後期課程）	1	0	0.0			
中等教育学校（前期課程）	19	11	57.9	608	608	609
特別支援学校（中学部）	1	1	100.0	8	8	0

	平均正答数（正答率）			平均 IRT スコア	
	国語	正答率 (%)	数学	正答率 (%)	英語 3 技能 英語 4 技能
全国	9.6 / 15	64.2	9.2 / 16	57.4	502 499
国立学校	12.3 / 15	81.7	13.0 / 16	81.4	624 —
公立学校	9.6 / 15	63.9	9.1 / 16	57.0	499 —
私立学校	10.6 / 15	70.8	10.6 / 16	66.3	562 —

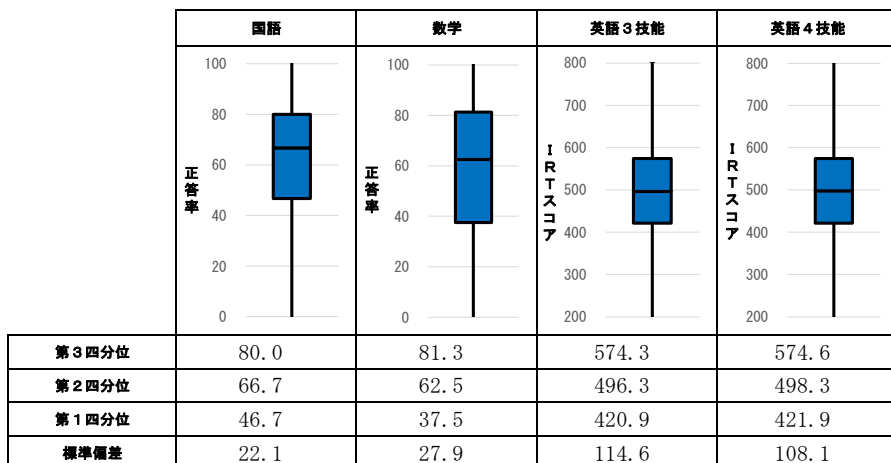
【B 表：国語・数学は 4 月 2 4 日から 4 月 3 0 日までに調査を実施、英語は 3 技能を 4 月 2 7 日から 5 月 1 日に CBT 方式で調査を実施（参考）】

	学校数			生徒数		
		実施数		国語	数学	英語
全国	—	91	—	15,500	15,458	15,065
中学校	—	84	—	15,040	14,998	14,710
義務教育学校（後期課程）	—	3	—	356	357	298
中等教育学校（前期課程）	—	0	—	82	82	22
特別支援学校（中学部）	—	4	—	22	21	35
国立学校	—	3	—	540	541	392
中学校	—	2	—	530	531	271
義務教育学校（後期課程）	—	0	—	1	1	98
中等教育学校（前期課程）	—	0	—	0	0	13
特別支援学校（中学部）	—	1	—	9	9	10
公立学校	—	82	—	14,086	14,043	13,929
中学校	—	76	—	13,636	13,593	13,698
義務教育学校（後期課程）	—	3	—	355	356	200
中等教育学校（前期課程）	—	0	—	82	82	6
特別支援学校（中学部）	—	3	—	13	12	25
私立学校	—	6	—	874	874	744
中学校	—	6	—	874	874	741
義務教育学校（後期課程）	—	0	—			
中等教育学校（前期課程）	—	0	—	0	0	3
特別支援学校（中学部）	—	0	—			

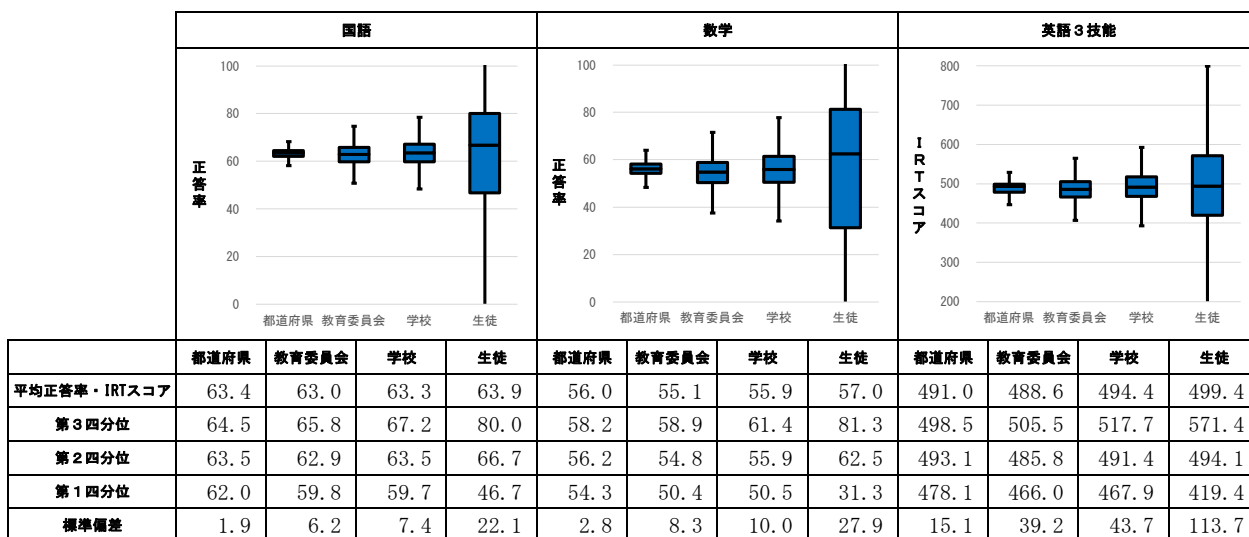
【C 表：実施状況の総計】

	学校数			生徒数			
	調査対象者 在籍学校数	実施数	実施率 (%)	国語	数学	英語	質問
全国	10,128	9,521	94.0	880,217	880,818	876,529	874,716
中学校	9,584	9,004	93.9	865,006	865,599	861,431	859,540
義務教育学校（後期課程）	292	291	99.7	9,937	9,942	9,949	9,925
中等教育学校（前期課程）	57	49	86.0	4,878	4,884	4,894	4,858
特別支援学校（中学部）	195	177	90.8	396	393	255	393
国立学校	80	80	100.0	9,349	9,350	9,337	9,338
中学校	67	67	100.0	8,339	8,337	8,347	8,339
義務教育学校（後期課程）	6	6	100.0	519	519	517	513
中等教育学校（前期課程）	4	4	100.0	460	463	456	455
特別支援学校（中学部）	3	3	100.0	31	31	17	31
公立学校	9,249	9,228	99.8	855,959	856,534	853,132	851,108
中学校	8,739	8,736	100.0	842,374	842,944	839,636	837,518
義務教育学校（後期課程）	285	285	100.0	9,418	9,423	9,432	9,412
中等教育学校（前期課程）	34	34	100.0	3,810	3,813	3,826	3,824
特別支援学校（中学部）	191	173	90.6	357	354	238	354
私立学校	799	213	26.7	14,909	14,934	14,060	14,270
中学校	778	201	25.8	14,293	14,318	13,448	13,683
義務教育学校（後期課程）	1	0	0.0				
中等教育学校（前期課程）	19	11	57.9	608	608	612	579
特別支援学校（中学部）	1	1	100.0	8	8	0	8

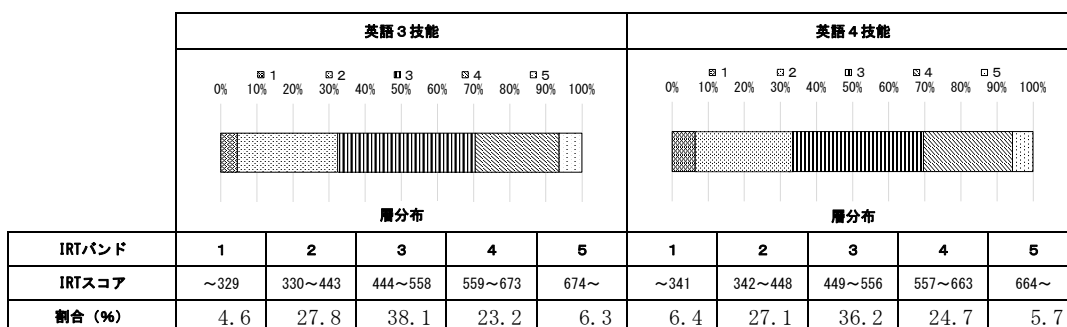
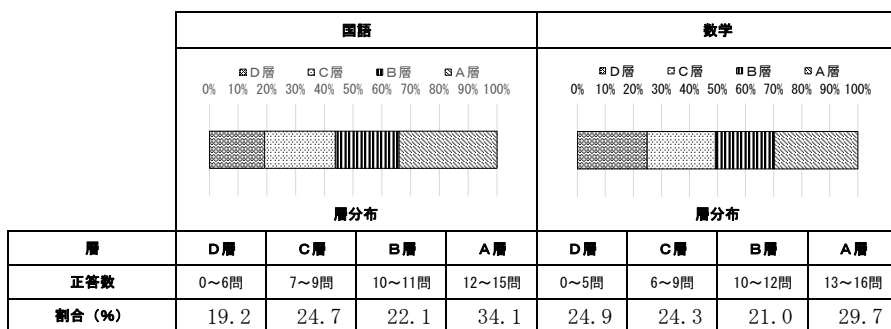
【全国（国公私）の正答率・IRTスコアの分布】



【様々な集計単位でみる正答率・IRTスコアのばらつき（公立）】



【全国（国公私）の正答数・IRTバンドごとの層分布】



令和8年度全国学力・学習状況調査
問題別調査結果 【国語】
全国一児童（国・公・私立）

小学校調査

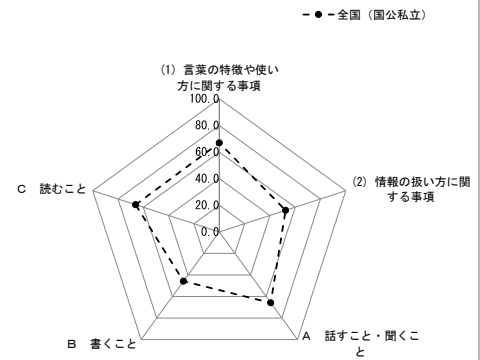
・以下の集計値／グラフは、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	全国（国公立）	対象児童数	全国（国公立）
	18,271		934,607

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)
				全国（国公立）
全体			13	61.1
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	66.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	52.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0	
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	65.9
		B 書くこと	2	45.8
		C 読むこと	2	66.1
評価の観点	知識・技能	6	62.1	
	思考・判断・表現	7	60.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	9	62.1	
	短答式	2	62.8	
	記述式	2	55.1	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			全国（国公立）	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率（%）	無解答率（%）
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと								
1ー	【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる				3・4 イ				○		○			74.0	0.7
1二 (1)	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5・6 ウ				○		○			60.4	0.6
1二 (2)	【動画の一部】の太線囲みの部分の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				5・6 ウ				○		○			63.3	0.7
1二 (3)	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	5・6 ク							○		○			65.3	0.8
2ー	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる				5・6 イ				○		○			58.1	0.8
2二	【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる	3・4 ア							○		○			49.0	1.1
2三ア	【花山さんの文章の一部】の下線部アを、漢字を使って書き直す（みじか・い）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ							○			○		80.2	4.0
2三イ	【花山さんの文章の一部】の下線部イを、漢字を使って書き直す（ふしぎ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ							○			○		45.4	6.6
2四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6 エ				○				○	33.6	5.1
3ー	【文章】の特徴として適切なものを選択する	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	5・6 カ							○		○			76.9	2.2
3二	傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6 イ							○		○			55.8	2.5
3三 (1)	【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5・6 ウ		○		○			55.7	3.3
3三 (2)	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						5・6 オ		○				○	76.5	15.4

・以下の集計値／グラフは、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

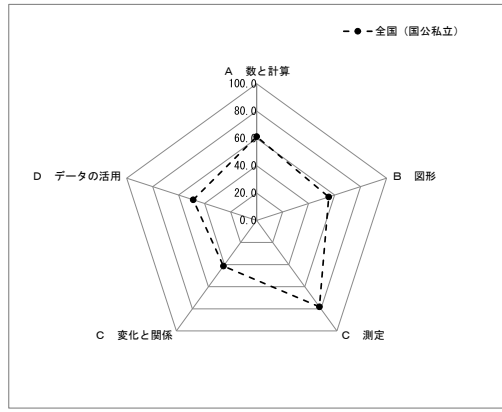
集計結果

対象学校数	全国（国公立）	対象児童数	全国（国公立）
	18,269		934,973

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)
			全国（国公立）
全体		16	56.6
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.3
	B 図形	4	55.5
	C 測定	1	78.2
	C 変化と関係	3	41.4
	D データの活用	4	48.8
評価の観点	知識・技能	12	60.3
	思考・判断・表現	4	45.6
	主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式	選択式	5	56.2
	短答式	8	59.9
	記述式	3	48.7

（注）「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			全国（国公立）	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率（％）	無解答率（％）
1（1）	一辺が8cmの立方体の体積を求める式を書く	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	5(4) ア(イ)					○				○		72.9	1.2
1（2）	直方体の箱の形の穴の面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く	直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうかをみる	2(1) ア(ウ) 4(2) ア(ア)					○				○		63.2	1.7
1（3）	1立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く	体積の意味について理解しているかどうかをみる	5(4) ア(ア)					○				○		40.4	4.2
1（4）	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	2(2) ア(ア)	4(2) ア(ア) ※			3(1) ア(ア)	○				○		45.5	5.8
2（1）	74291の百の位の数や四捨五入して、千の位までの概数で表したものを選ぶ	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる	4(2) ア(イ)					○			○			66.7	1.0
2（2）	インガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるとき、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く	百分率で表された割合と比較量から、基準量を求めることができるかどうかをみる				5(3) ア(イ)		○				○		53.3	7.2
2（3）	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる				5(2) イ(ア)		○			○			36.2	1.6
2（4）	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	4(4) ア(ア)			5(3) ア(ア)		○			○			34.5	1.5
3（1）	1、5、9の3枚のカードを当てはめてつくることができる最も大きい数を書く	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	4(4) ア(イ)					○				○		94.5	1.0
3（2）	二つの小数のどちらが5に近いかを判断するために、6.37-5と5-3.76を計算する	整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる	4(4) ア(ウ)					○				○		58.4	2.2
3（3）	7/3と7/4のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	4(6) ア(ア) 4(4) ア(ア) 7(2) イ(ア)					○				○		44.3	3.1
3（4）	5/3を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ	単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) ア(イ)					○			○			68.4	2.7
4（1）	全員のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く	示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(ア) ※	○				○		56.4	3.7
4（2）	普通部の計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分かを書く	示された情報を基に、数量の関係を着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる	2(2) ア(ア) 3(4) ア(ア)			3(2) ア(イ)		○				○		78.2	3.4
4（3）	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる					4(1) ア(ア)	○				○		18.2	3.9
4（4）	帯グラフから、「いっしょに話ができたこと」の割合が約何%かを選ぶ	帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる					5(1) ア(ア)	○			○			75.1	6.9

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

令和8年度全国学力・学習状況調査
問題別調査結果 【国語】
全国一生徒（国・公・私立）

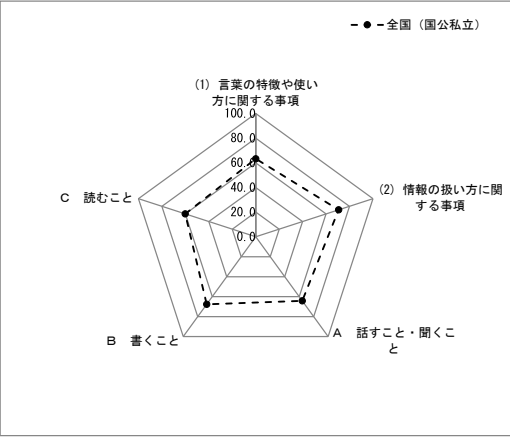
中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		全国（国公立）		対象生徒数	全国（国公立）	
		9,375			864,717	
分類		区分		対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
					全国（国公立）	
全体				15	64.2	
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項		5	63.3	
		(2) 情報の扱い方にに関する事項		1	70.7	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		0		
	思考力、判断 力、表現力等	A 話すこと・聞くこと		3	64.2	
		B 書くこと		3	67.7	
		C 読むこと		3	60.1	
評価の観点		知識・技能		6	64.5	
		思考・判断・表現		9	64.0	
		主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式		選択式		9	73.0	
		短答式		3	56.1	
		記述式		3	45.9	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			全国（国公立）	
			知識及び技能			思考力、判断 力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正 答 率 （ ％ ）	無 解 答 率 （ ％ ）
			(1) 言葉 の 特 徴 や 使 い 方 に 関 す る 事 項	(2) 情 報 の 扱 い 方 に 関 す る 事 項	(3) 我 が 国 の 言 語 文 化 に 関 す る 事 項	A 話 す こ と ・ 聞 く こ と	B 書 く こ と	C 読 む こ と								
1 一	「可能の意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる	2 オ						○			○			84.5	0.2
1 二	「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する	単語の類別について理解しているかどうかをみる	1 エ						○			○			70.3	0.3
1 三	「ら抜き言葉」であるものを選択する	単語の活用について理解しているかどうかをみる	2 オ						○			○			85.6	0.2
2 一	発言について説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				1 ア			○			○			68.9	0.3
2 二	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる				1 エ			○			○			70.7	0.3
2 三	話合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		2 イ					○			○			70.7	0.4
2 四	話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる				2 オ			○					○	53.1	14.5
3 一	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	2 ウエ						○			○			40.4	0.3
3 二	気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる					2 ウ		○				○		92.4	4.7
3 三	文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する	段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる					2 イ		○			○			65.3	0.5
3 四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる					2 オ		○				○		45.4	10.5
4 一	文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる						1 ア	○			○			71.9	0.7
4 二	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	1 ウ						○				○		35.5	19.5
4 三	文章中に書かれている、会話の表情を表す擬音語・擬態語の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる						1 ウ	○			○			69.0	1.0
4 四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子や擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かめることができるかどうかをみる						1 オ	○				○		39.3	18.3

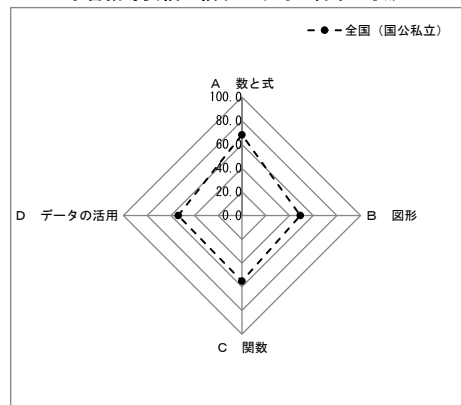
・以下の集計値／グラフは、4月23日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	全国 (国公立)	対象生徒数	全国 (国公立)
	9,372		865,360

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
全体		16	57.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	68.1
	B 図形	4	49.2
	C 関数	3	55.3
	D データの活用	4	53.8
評価の観点	知識・技能	12	63.3
	思考・判断・表現	4	39.6
	主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式	選択式	3	59.6
	短答式	9	64.6
	記述式	4	39.6

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			全国 (国公立)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率 (%)	無解答率 (%)
1	2月3日のA市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	1 (1) 7 (7)					○			○		85.9	0.6
2	$7x + 9 - 5x + 7x^2 + 2x$ から、 $7x$ の同類項をすべて書く	同類項の意味を理解しているかどうかをみる	2 (1) 7 (7)					○			○		70.5	2.1
3	四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる	2 (1) 7 (7)					○			○		49.6	2.8
4	反比例の表において、xの値が-3のときのyの値を求める	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができるかどうかをみる	1 (1) 7 (7)					○			○		55.9	1.0
5	大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が1である確率を求める	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる				2 (2) 7 (7)		○			○		60.8	4.7
6 (1)	選んだ2数が3と6のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	2 (1) 7 (7)					○			○		73.6	6.5
6 (2)	陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを説明するための方針を完成するために、当てはまるものを選ぶ	事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかをみる	2 (1) 7 (7)					○		○			65.2	0.6
6 (3)	手順にしたがってできたAとBについて、A-Bの値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2 (1) 7 (7)					○			○		45.2	26.1
7 (1)	動画の時間とデータ量の関係を表すグラフにおいて、点Cの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる			1 (1) 7 (7)			○			○		75.5	5.5
7 (2)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			1 (1) 7 (7)			○			○		34.5	39.0
8 (1)	$\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いた式で書く	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる	1 (1) 7 (7)					○			○		63.1	8.8
8 (2)	図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	2 (2) 7 (7)					○			○		46.6	21.9
8 (3)	図2において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる	2 (2) 7 (7)					○		○			37.5	1.0
9 (1)	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる			1 (1) 7 (7)			○			○		46.3	14.0
9 (2)	学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる			2 (1) 7 (7)			○		○			75.9	0.7
9 (3)	「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、悠真さんが調べたことの二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる			1 (1) 7 (7)			○			○		32.2	28.5

・以下の集計値は、4月20日から4月24日に実施した調査の結果を集計した値である。

問題別集計結果(公開問題)

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			全国(国公立)		問題の難易度	全国(国公立)
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと 「やり取り」	(4) 話すこと 「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式	正答率(%)	無解答率(%)		
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものをを選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○※					○			○			60.6	0.2	4	861,464
2	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			78.7	0.1	3	295,144
3	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			76.3	0.1	3	283,126
4	職場体験についての発表を聞き、その後に表示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる	イ						○		○			44.4	0.3	4	283,194
5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ						○		○			56.0	0.2	4	861,464
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○※					○			○			67.7	1.1	3	861,464
7	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			72.8	0.1	3	295,754
8	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			64.2	0.1	3	282,886
9	物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものをを選択する	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる	イ						○		○			49.2	0.1	5	282,824
10(1)	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	ウ						○		○			48.1	0.2	4	861,464
10(2)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる					ウ		○			○		28.4	14.4	5	861,464
11①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					ア	○			○			59.4	2.5	3	861,464
11②	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					ア	○			○			53.3	2.9	3	861,464
12	中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○			○		48.0	8.6	4	295,673
13	留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○			○		44.7	9.2	4	282,886
14	学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○			○		28.5	14.0	4	282,905

※「学習指導要領の領域」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

・以下の集計値は、４月２４日から４月２７日に実施した調査の結果を集計した値である。

問題別集計結果（公開問題）																	
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		全国（国公立）		問題の難易度	全国（国公立）	
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと「やり取り」	(4) 話すこと「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式	正答率（％）		無解答率（％）	対象生徒数
15（1）	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		42.3	9.2	5	46,096
15（2）a	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		33.5	12.0	4	25,779
15（2）b	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		32.1	13.4	4	20,317
16	留学生と一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	53.5	11.3	4	15,252
17	自分の好きな人物を1人取り上げ、好きな理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	48.0	12.1	4	15,577
18	自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を1つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	21.5	13.5	5	15,267
19	学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる				ウ			○				○	25.8	17.0	5	46,096

※「学習指導要領の領域」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

令和8年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（抜粋）

（令和7年12月5日付け文部科学事務次官決定）

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

7. 調査結果の取扱い

文部科学省は、本調査を通じて、学習指導要領の理念が浸透し学力の状況に反映されているか等を把握・分析するとともに、児童生徒の学習の改善に関する取組や、指導方法や教員配置等の改善に向けた教育施策の充実へとつなげることができるよう、以下のとおり、調査結果を示して公表するとともに、各教育委員会及び学校等に対して、調査結果等を提供する。調査結果の示し方に関しては、CBTやIRT（項目反応理論をいう。以下同じ。）の意義を最大限反映させ、児童生徒一人一人の学力・学習状況が細やかに分かる結果の示し方となるようにする。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第21条第17号の規定により、調査の実施、調査結果の活用及び公表等を含め、公立学校に係る調査は教育委員会の職務権限である。そのため、教育委員会は、調査結果の活用及び公表等の取扱いについて、主体性と責任を持って当たることとする。

（1）調査結果の示し方

文部科学省は、小学校調査及び中学校調査のそれぞれの結果として、以下の事項等を示す。

ア PBTで実施する教科に関する調査の結果

（ア）各教科に係る問題の全体の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等

（イ）以下をそれぞれ単位とした各教科の平均正答数等の分布等が分かるグラフ

- ① 都道府県教育委員会
- ② 都道府県教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）
- ③ 指定都市教育委員会
- ④ 市区町村教育委員会
- ⑤ 学校
- ⑥ 児童生徒

（ウ）各教科の設問ごとの正答率等

（エ）各教科の設問ごとの解答類型別児童生徒数の割合

イ CBTで実施する教科に関する調査の結果

（ア）各教科に係る問題の全体のIRTスコア等

（イ）以下をそれぞれ単位とした各教科のIRTスコア等の分布等が分かるグラフ

- ① 都道府県教育委員会
- ② 都道府県教育委員会（指定都市教育委員会を除く。）
- ③ 指定都市教育委員会

- ④ 市区町村教育委員会
- ⑤ 学校
- ⑥ 生徒

(ウ) 各教科の公開問題の設問ごとの正答率等

(エ) 各教科の公開問題の設問ごとの解答類型別生徒数の割合

ウ 児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果

(ア) 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況

(イ) 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況と教科に関する調査の正答率、IRTスコア等との相関関係の分析

エ その他調査の目的の達成に資する分析

(2) 文部科学省による調査結果の公表

文部科学省は、調査の目的を踏まえ、以下の事項等について調査結果を文部科学省ホームページに公表する（文部科学省における調査結果の公表の体系は別紙4）。

ア 以下の（ア）から（オ）までの区分に応じ、上記7.（1）ア（ア）及び（ウ）から（エ）、イ（ア）及び（ウ）から（エ）、並びにウで示した結果。

（ア）国全体（国・公・私立学校全体の状況及び国・公・私立学校別の状況）

（イ）都道府県ごと（都道府県教育委員会及び市区町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

（ウ）都道府県（指定都市を除く。）ごと（都道府県教育委員会及び市区町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

（エ）指定都市ごと（指定都市教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

（オ）地域の規模等に応じたまとまりごと（「大都市」（指定都市及び東京23区）、「中核市」、「その他の市」及び「町村」並びに「へき地」の五つの区分における市区町村教育委員会が設置管理する学校全体の状況）

イ 上記7.（2）ア（イ）から（エ）までの区分についての、以下の（ア）から（エ）までの分析資料。なお、本資料は、各都道府県・指定都市を単位とする各教科に係る問題全体の平均正答率・スコアの散らばりに関する解釈も含め、当該公表を通じて調査結果を正確かつ効果的に示し、各都道府県・指定都市ごとの状況を多面的に解釈することを目的としている。

（ア）分布や習熟度に目配りした統計表やグラフ

（イ）学力や質問調査結果の状況を示す散布図

（ウ）教科の傾向や児童生徒質問の領域別の特徴を把握するための結果チャート

（エ）都道府県・指定都市別結果等を文章で説明するノート

ウ 教科に関する調査の解答状況及び質問調査の回答状況（一般に公開された場合に、個人、学校及び設置管理者等が特定されることのないよう、データの匿名化処理（必要に応じて疑似データ化等の処理を含む。）を行ったもの）

エ その他調査の目的の達成に資する分析